



やない 克子

生活者ネットワーク 区議レポート

No. 31



きみがき 圭子



▲9月21日、「おこわり うるさい あぶない!低空飛行 表参道パレード」に参加したやない克子

説明会やオープンハウスでは、落下物や大気汚染、騒音など不安を訴える声が多数。しかし、国は不安を払しょくする明確な返答はできず、住民は納得していません。生活者ネットワークは、計画発表当初から一貫して見直しを求

めてきました。一方、国は来年3月の夏ダイヤ改正から運用すると強行な姿勢です。区民の暮らしを守るために経済優先で安全軽視、住環境悪化を招く羽田空港新ルートの見直しを区は国に強く求めるべきです。

安全軽視の羽田空港新ルートは見直しを

プラスチックによる海洋汚染、温室効果ガスによる地球温暖化は生態系を崩し、近年の異常気象が生活に大きな影響を与えています。16歳の環境活動家グレタさんは、経済

を優先し温暖化に真剣に取り組まない大人たちに怒りの訴えをしました。福島原発事故も環

▶8月19日、清水山緑の森で「川の水質を守る」ことの大切さを子どもたちに伝えるきみがき圭子



境を破壊し、未だ解決していないにもかかわらず、国は再稼働をやめません。区はエネルギーギープイジョンに脱原発を掲げ、再生可能エネルギーによる自立都市へと舵を切るべきです。

脱原発、脱プラスチックで環境に配慮した区政を

東京で暮らす女性たちの声を集めて浮き彫りになった課題は、性別役割分業が解消され

男性も家事・育児・介護を共に担える労働環境の整備が必要です。そのために、男性の育児休業取得を増やすことは大きな意味があります。第5次

男女共同参画計画に位置づけ、区が積極的に取り組むことを求めます。さらに、性の多様性やジェンダー、多文化共生など人権施策優先に取り組むようはたらきかけていきます。

*生活者ネットワークは、2018年ジェンダー問題プロジェクト調査を行いました。

女性支援、人権施策を充実させる

ていないことでした。

■ご意見をお寄せください。

保健福祉
委員会/
交通対策等
特別委員会



区議会議員

やない 克子

<http://yanai.seikatsusha.me>



ひとりの「困った」を
軽視しないで！
「香害、化学物質過敏症対策」

リーフレット作成が実現

洗濯柔軟剤や制汗剤、芳香剤などの香りのもとになっている化学物質に反応して健康被害が生じる化学物質過敏症は、自分がいくら気をつけていても避けられないのがアレルギー対応などと異なることです。特に許容量の低い子どもたちには、予防原則に基づく対応が求められます。

生活者ネットワークは、消費生活、環境、保健、教育の部門が連携して対策するよう求めて

きました。6月議会の一般質問に対して「ホームページなどの媒体を通じて周知する予定」と区は答え、ようやく8月下旬に「化学物質過敏症を知ってください」というリーフレットの作成とホームページへの掲載が実現しました。

リーフレットは現在、6カ所の保健相談所と本庁舎生活衛生課、消費生活センターに置かれています。周田からの香りやそのもとになる化学物質によって、身体的、精神的な症状が出ることを考えると、化学物質対策はむしろ、関心のない人への啓発が必要です。

区はリーフレットを作成して終わりではなく、より多くの目に触れるように区立施設や学校、病院への掲示など、周知啓発のための取り組みに力を入れるよう求めています。



▲「化学物質過敏症を知ってください」というリーフレット作成と掲示を実現

等しく学べる環境整備を

◆決算認定に反対

2018年度決算約2587億円は「みどりの風吹くまちへ 区民とともにさらに前に進む」と位置づけた予算に対するものです。しかし、その区民とは「賛成する区民」のことであり、異論反論を排除したものでした。このことから決算の認定に反対しました。

◆2020年度予算要望



11月1日、子育てや介護、防災など、地域や生活の課題をまとめ、山内副区長に手渡しました。

区内のある小学校では、保護者が継続して熱心に情報提供し、働きかけた結果、養護教員をはじめ校長も香りの害や化学物質過敏症についての理解が深まり、安心して学校生活を送れるようにさまざまな配慮をしている事例があります。しかし、中学校への進学を控え「同様の対応が求められるのか」不安を訴える声を聞いています。実際、複数の学校を訪問し教員と面談していますが、予想通り理解が得られず、心ない言葉をかけられ傷ついているとのこと。

学校では、シックスクール対策として文科省が告示した「学校環境衛生基準」に基づき教室

内の空気の測定をおこなっています。しかし、室内濃度指針策定の対象となっていないのは、ホルムアルデヒドやトルエンなど13種類だけです。東京都は「化学物質子どもガイドライン」を策定していますが「香害」の概念はありません。

学校の教室でクラスメイトの衣服などから発する香りなどの化学物質によって具合が悪くなる児童生徒がいるのですから、新たなシックスクールと捉えて対策すべきです。

都議会と連携し、実態把握のための調査や都の「化学物質子どもガイドライン」の見直しを求め、子どもたちが安心して学べる環境整備に取り組みます。



区民生活委員会
都市農業・みどり環境等特別委員会



区議会議員
きみがき 圭子
http://kimigaki.seikatsusha.me

道徳の教科化に異議あり

道徳の授業が教科化され「特別の教科 道徳」として2018年度から小学校、今年度から中学校で始まっています。

大きく変わったことは「教科書を用いる」「評価をする」とことです。

今までの道徳の時間でも副読本は使用されてきましたが、教科化によって学習指導要領の重点的指導に合わせて作成され、文部科学省の検定を通った中から選ばれた教科書を使用していきます。

道徳科は「よりよく生きるための道徳性を養う」ことを目的

とし、学校教育全体でおこなう道徳教育の真のかなめとされています。

自由な発想を妨げる教科書

教科化にあたり「価値観など一人ひとりの考えを尊重するべき内心の問題に対し、国が認めた教科書で指導を行うことは政治的な介入」「価値観の押し付けによって子どもたちが同じ方向に誘導されていくことは重大な問題」「教員が指導要領に沿っていけばいいと教員自体の考えが画一化され、創意工夫がなくなる」と指摘して教科化に反対し、議会においても何度も質問してきました。

多くの区民からも危機感を持つ声が届いています。

子どもの心を評価するって?

評価は段階の数値ではなく記述によるものですが、そもそも正解や到達点のない道徳に評価があること自体問題です。

教科書は「やさしさ」とか「思いやり」「家族愛」などテ

ーマ別の物語を通して、子どもたちの考えを引き出すようになっていきます。どのような発言をすればよい評価につながるのか、子どもたちが先にわかってしまう内容なので、教員からも「評価するのが大変」という声が届いています。また子どもも自由な考えを引き出せるような授業になるのかも問題があります。場合によっては子どもが自分の考えを否定されたことで教員への不信感を抱いてしまう危険性もあります。

子どもたちが気がつかないうちに、規範意識を押しつけられたい評価されることは、日本が



▲8月7日、学習会「道徳の教科化をどうみるか～近代社会のうちなる監視制度の完成として～」

Information

第四回定例区議会 11月27日(水)～12月13日(金) 開催予定

いま一番わかりやすい憲法のお話

「檻の中のライオン」in練馬

日時:12月19日(木) 14:00～16:30(受付13:30～)

場所:練馬区役所地下多目的会議室 資料代:500円(高校生以下無料)

講師:ひろしま市民法律事務所 弁護士 椋(はんどろ)大樹さん

主催:檻の中のライオンin練馬 実行委員会

申込み・問合せ:生活者ネットワーク 電話03-3993-4899

メール net-gikai@jcom.home.ne.jp

勧告を受けている子どもの権利条約の「子どもの自由に見解を表明する権利」に反することであり、頭だけで理解する大人に育てる危険性があります。

子どもが社会の一員として一人ひとりの考えが尊重され、「みんな違って当たり前」とお互いを認め合えるシチズンシップ教育こそ進めるべきです。